



## 新・技術競争の荒海を 『出雲建設丸』どう進む

(社)鳥根県建設業協会出雲支部  
支部長 中筋 豊通

新年 明けましておめでとうございます。皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年の7月豪雨災害に際し、地域の安全・安心のために、大変なご尽力本当にお世話になりました。ありがとうございました。

さて、今年の干支【亥】い（ゐ） 【猪】いーのーしし  
辞書を引いてみた、あまり良い言葉が出てこない。十二支の話も…。

確か、神様が動物たちに、元日の朝、新年の挨拶に出て来いとおふれを出された。猫はいつ行くのか忘れてしまい、ねずみに尋ねた。ねずみはわざと一日遅れの目を教えてやった。牛は歩くのが遅いので暗いうちから出発した。ねずみはその牛の背に飛び乗った。

牛はそんなこととはつゆ知らず、神様の御殿の前に着いた、一番だと喜んだ。が、門が開いた瞬間、「ひょいっ」とねずみが飛び降り、ねずみが一番になった。猫は一日遅れで行ったので13番目、番外になってしまった。その日以来、ねずみは猫に追われるようになった。

しかし、何故、いのししが最後なのか。あんなに機敏なのに…。性質は凶暴で、怒ると背筋の長毛を逆立てる。走ると曲がれないほど突っ走る性質から、周囲の状況も考えず、ただ一途にものごとに進んで後退しないもの、と辞書にある。いのししのように怒っては、猪突猛進では、勝負にならないのか。

12月8日、国土交通省が「緊急公共工事品質確保対策」を発表しました。

- \* 施工体制を評価項目とする新たな総合評価方式の実施
  - \* 低入札価格調査への失格判断基準の導入
  - \* 従来対策は施工時の品質確保に重点
- ⇒新対策は入札時点で安値受注を排除する内容
- ・ 極端な低価格で応札した業者は、施工体制や資機材・労務調達に問題がないことを証明しなければ落札出来なくなる。

新総合評価方式で、手抜き工事や、協力業者へのしわ寄せが懸念される落札価格の低下に歯止めがかけられるのか、指名競争入札から一般競争入札拡大へ。大手も巻き込んで、業界に本格的な「新・技術競争」の時代がやって来る。勝てるのか、生き残れるのか、『出雲建設丸』まさしく正念場である。

【亥】【猪】反面教師。怒るな、あわてるな、周りを良く見ろ、何が起きてもじたばたするな、冷静に行こう。いのししの生き様では勝者にはなれない、そう教えています。

そして、「緊急公共工事品質確保対策」は、「協力業者と信頼関係を築き、しっかりと施工体制が組めるのか」「本当に現場を知っているのか、技術力があるのか」そう問いかけています。

良い品質は、適正価格から…必ずそんな時代が来ます。建設産業関係各位、  
『地域の発展と安全・安心のために』みんなで頑張ってください。

ありがとうございました。今年もよろしく願いいたします。





## 新年のご挨拶

国土交通省出雲河川事務所  
所 長 渡 邊 茂

新年あけましておめでとうございます。鳥根県建設業協会出雲支部の皆様方におかれましては穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、皆様には平素より出雲河川事務所の治水や河川環境整備の取り組みへのご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

出雲河川事務所はご存じのとおり鳥取島根県境の船通山に源を発し宍道湖中海を経て境水道より日本海に至る斐伊川の整備・管理を担当している事務所です。昨年は、平成18年7月豪雨による出水、8月1日には斐伊川放水路事業の進捗に伴う神戸川の斐伊川水系編入、水環境フェア2006in松江の開催、10月のヨシ植栽特別イベントなどが立て続けにあり、治水や河川環境整備の重みを改めて感じた一年でした。

平成18年7月豪雨による洪水では、松江市街地などが34年ぶりに浸水するなど流域で大きな影響を受けました。一方、従前より着実な整備を進めてきた宍道湖西岸堤の背後地や斐伊川放水路の周辺では大きな浸水被害はなく、社会資本整備の効果を実感しました。松江市街地の抜本的な浸水対策となる大橋川の改修が待たれますが、大橋川に関しましては大橋川周辺まちづくり検討委員会や大橋川改修に関する環境検討委員会などにおいて熱心なご議論をいただいているところです。引き続き改修計画の具体化に向けて取り組んでいきます。

斐伊川中流で事業中の斐伊川放水路につきましては、開削部における基盤整備や神戸川拡幅部における神戸堰改築や神戸川旧堤防の撤去などを精力的に進めています。今年は特に放水路分流出点付近の本格的整備にさしかかる段階となります。この他、中海の湖岸堤整備、ラムサール条約に登録された宍道湖中海の環境を保全する環境整備事業、樹木伐採や土砂移動が課題となっている維持修繕事業などに取り組んでいきます。

また、公共工事の品質確保につきましては、平成17年4月の「公共工事の品質確保の促進に関する法律」施行以来、昨年は特に総合評価方式の実施拡大に取り組んできたところです。社会資本整備を通じて地域づくりに貢献していくという我々の立場を鑑みても、品質確保は重要な課題であり、本年もこの新しい仕組みの定着に努めていきます。

最後になりましたが、本年における鳥根県建設業協会出雲支部の皆様方の益々のご発展ご活躍を祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 新年のご挨拶

出雲県土整備事務所  
所 長 櫻 隆 之

平成19年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶申し上げます。

平成18年の4月に土木と農林の地方機関の統合により県土整備事務所がスタートしました。この組織改正の効果として、建設業界に対して、地域のバランスや発注時期を調整した一元的な発注計画を示すことが可能と考え、取り組みを行ってきたところです。しかしながら、当分の間は組織内の連携等の問題からいろいろと迷惑をおかけしたことも多々あったと思います。今後、これらの改善に努めながら地域における公共土木、農林施設等の社会資本の維持管理、施設整備に一層の取り組みに努力をしてみたいです。何卒、ご理解の程、宜しくおねがい致します。

さて、平成18年を振り返りますと、皆様ご存知のとおり、7月には何十年ぶりの豪雨災害に見舞われ、河川の決壊、道路の流失、家屋浸水等と、近年まれに見る大被害を受けました。私どもの出雲県土管内では、公共土木施設単独災害(申請決定額)で128箇所、約31億円であります。また、大きな河川決壊等の被害を受け原形復旧でなく改良復旧等の必要な所原、乙立、八幡原の3地区については、国庫補助や河川災害関連復旧制度等を活用し早期に整備を行う予定で関係機関との協議調整、住民の皆様方の理解や協力を得るために、地元説明会などを進めているところです。

また、今回の災害で発生した河川の氾濫や、浸水し交通が遮断された道路などの応急復旧にあたり建設業協会の皆様には災害応急対策業務に関する協定書に基づき迅速にかつ懸命な応急復旧作業に取り組んでいただきました。改めて深く感謝申し上げます。建設興業タイムスに「地域を支える行政と企業の協力」という内容で私の7月災害に対する所感を述べましたが、**地域に対して行政、業界等の力を結集することの大切さと、地方の社会基盤を維持していく上で地域の建設業は不可欠な存在であると深く再認識したところです。**今回の災害を通じて数多くの教訓と反省すべき点を感じていますので、引き続き鳥根県建設業協会出雲支部の皆様方のご支援、ご協力を賜りながら安心、安全な地域づくりを進めていきたいと思っております。

また、平成19年度の各部局の予算要求概要(公表)では、補助・単独16.5%減(土木部:約494億円、農林水産部:約198億円)と公共事業を取り巻く環境は依然として厳しい中であり、解決すべき課題は山ほどありますが、皆様方と共に切磋琢磨しながらより良い地域社会の形成に努力して参りたいと考えています。

最後になりましたが、鳥根県建設業協会出雲支部並びに会員の皆様方の益々のご繁栄とご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



## 総合評価方式の推進について

鳥根県土木部技術管理課  
課長 福田 滋

明けましておめでとうございます。昨年は県土木行政の推進につきまして、格別のご尽力を頂き誠にありがとうございました。

さて、「公共工事の品質確保の促進に関する法律」が施行され、早2年が経とうとしています。公共工事の品質を確保するための総合評価方式は、価格のみの競争から、新しい技術やノウハウなど価格以外の要素を有効に活用し、価格と品質とを総合的に評価して落札者を決定する制度です。本県においてもいち早く取り入れ、平成17年度は3件試行し、平成18年度には22件実施しております。企業が潜在的に所持している技術力を活用し、工事の内容や周辺環境に応じた技術の評価により、工事の品質確保や工期の短縮、コストの縮減及び自然環境や住環境の保護など社会的な要請に応えることが可能となっております。

また、昨年の建設業を取り巻く社会環境には大変厳しいものがありました。全国的に問題となっていた極端な低価格による受注が、本県発注の公共工事でも散見されるようになったことです。このダンピング受注により、工事の品質確保への支障、下請けへのしわ寄せ、労働条件の悪化、安全対策の不徹底などの障害が懸念され、国民の安全・安心に直結する公共工事の品質確保に支障が及ぶ恐れがあります。

このため、本県としては低価格入札者に対して、従来から低入札価格調査制度実施要領による施工体制台帳や施工計画書の内容の聴取、重点的な監督業務の実施等を行ってまいりましたが、昨年10月からは、それに加え、下請け業者への立ち入り調査や中間検査の回数増、低入札工事の成績評定が低かった者の入札参加制限等新たな施策で取り組んでいます。

昨年5月に改正された「公共工事の入札及び契約の適正化を図るための措置に関する指針」では、一般競争入札の拡大と共に総合評価方式の拡充等を出来るだけ速やかに実施するよう促しています。また、昨年末、全国知事会議で宣言された官製談合の防止策と入札制度改革でも同様に、総合評価方式の拡充を提言しています。これらを受け、本県においても平成19年度は総合評価方式を更に拡大して実施することとしています。

前年度の試行結果を基に、発注者・受注者双方の事務負担の軽減を図ると共に、**技術提案がない場合や低価格入札工事の成績評定がよくなかった場合には加算点のマイナス評価を導入、県内企業の活性化を図るため社会貢献枠の拡大、ボランティア活動評価の明確化を図ることとしており、CPDSについては、個人が取得したユニット数を評価する項目を新設するなど、新たな取組みを行う予定です。**

終わりに、公共工事のより一層の品質確保の促進に対して、(社)鳥根県建設業協会出雲支部の皆様方のご理解とご協力を賜りますと共に、皆様方の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。



鳥根県各種功労者表彰受賞ご挨拶

## 社会的な信頼と地域貢献

今岡工業㈱  
今岡 余一良

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は当協会の各般にわたり格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて私事ではありますが、昨年12月、建設功労者として鳥根県知事表彰を受賞いたしました。この受賞は協会会員の皆様のご指導とご協力のおかげであると深く感謝をいたし、厚くお礼申し上げます。

私も建設業に携わって35年、協会役員となって20年の歳月が過ぎました。この間、建設業界の変革を様々な角度から見て、いろいろ体験して参りました。安定した良い時代もありました。厳しい時もありました。その時、その時代にどう対応すればよいか、協会会員の皆様の知恵と力を借り、随分助けて頂いたように思います。

言うまでもなく、ここ数年公共事業の削減、入札・評価制度等の改正など建設業界も激変してまいりました。その中でも公共事業を否定する声をよく耳にしますが、決してそうではなく、地域住民の方が安全で安心して暮しやすい生活ができる基盤作りに、他の産業ではできない大きな役割と使命があると考えます。と同時に地域に密着した産業として、今後一層の地域貢献を推進し、地域の方から必要とされ、信頼される建設業となり、魅力ある地域づくりを目指さなければなりません。私も今回の受賞を機に更に感謝の気持ちを忘れず、協会の発展のため、安定した建設業界づくりのために微力ながら力を注いでいく所存でございますので、協会会員の皆様より一層のご指導ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

終わりに、会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたし、受賞のお礼にあわせ新年のご挨拶といたします。